

景気動向調査

詳細は当社ホームページ (<https://www.fir.co.jp/>)「調査レポート」をご覧ください。

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

① 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

② 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

③ 調査期間

令和3年2月1日(月)～15日(月)

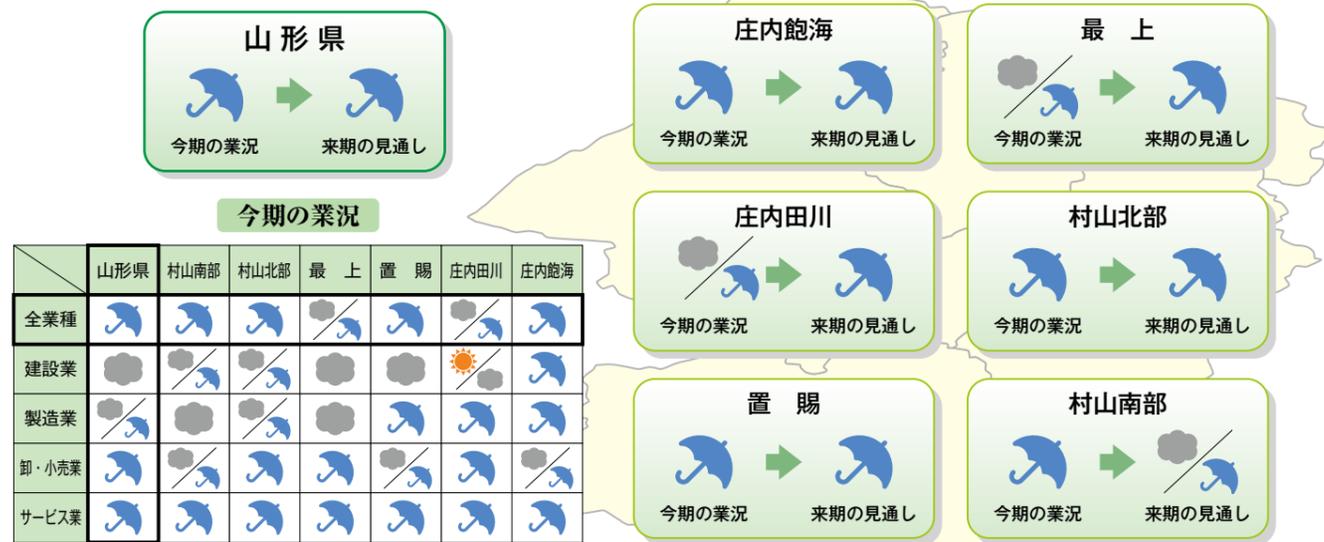
④ サンプル概要

アンケート対象企業 山形655社、秋田492社
有効回答数 山形397社、秋田368社
回答率 山形60.6%、秋田74.8%

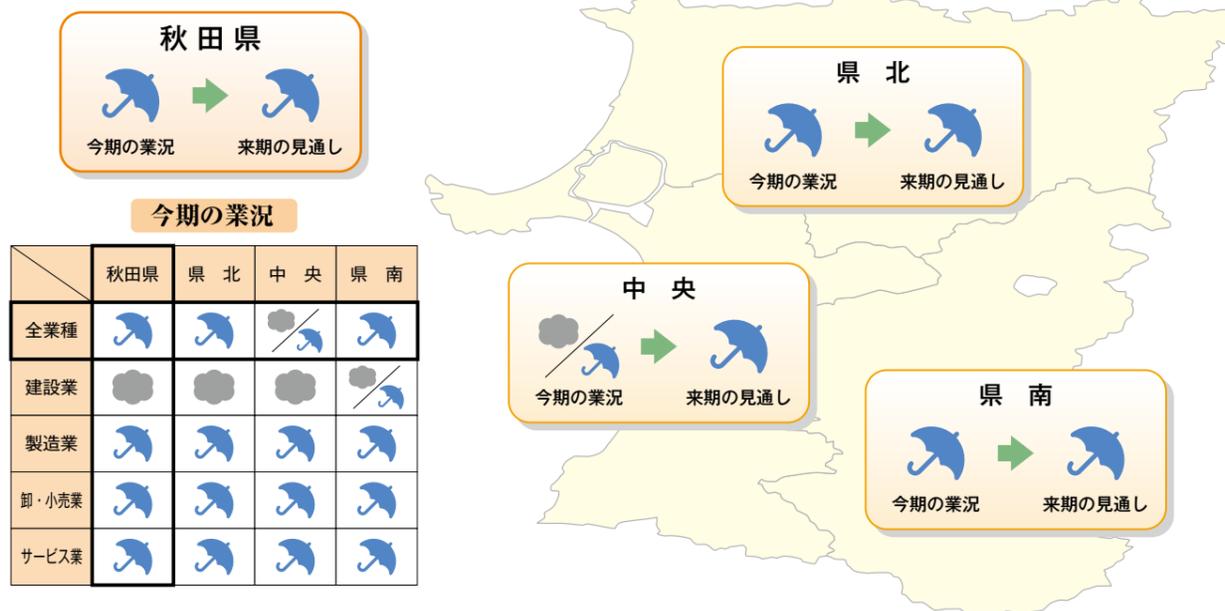
特に好調 DI≧30	好調 30>DI≧10	まあまあ 10>DI≧▲10	不振 ▲10>DI≧▲30	きわめて不振 ▲30>DI

景気の天気図

第66回 山形県内企業の景気動向調査



第39回 秋田県内企業の景気動向調査

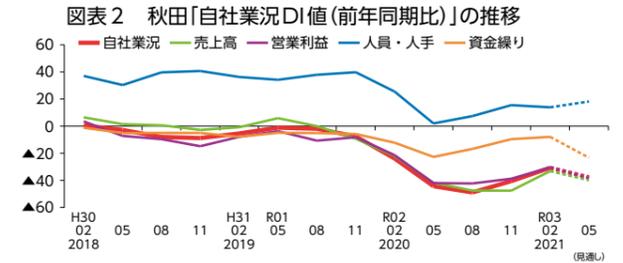
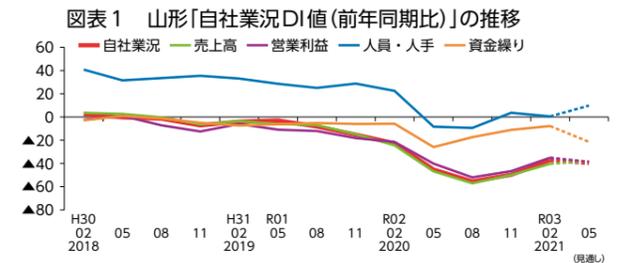


自社業況の動向

山形県の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲37.2(前回調査比12.6ポイント上昇)と**2期連続で改善**となった。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」はいずれも改善し、「人員・人手」はプラス幅が縮小した。

秋田県の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲30.7(前回調査比9.9ポイント上昇)と**2期連続で改善**となった。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「売上高」「営業利益」「資金繰り」の3項目が改善し、「人員・人手」は小幅ながら3期ぶりにプラス幅が縮小した。

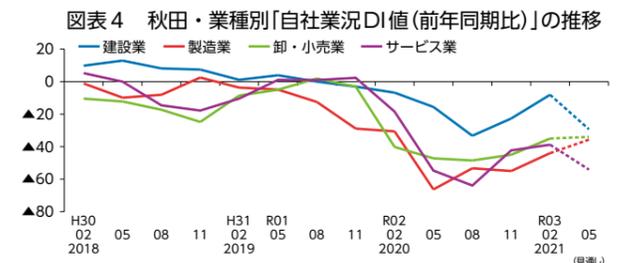
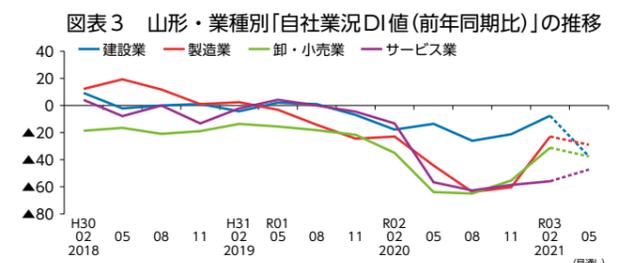
山形、秋田ともに、新型コロナウイルス感染症の影響は依然色濃く残るものの、持ち直しの動きがみられる。



業種別の動向

山形県の業況(前年同期比)を業種別にみると、いずれの業種も**2期連続の改善**と、**4業種すべてで改善**となった。特に製造業と卸・小売業では20.0ポイント以上の上昇とマイナス幅が縮小している。

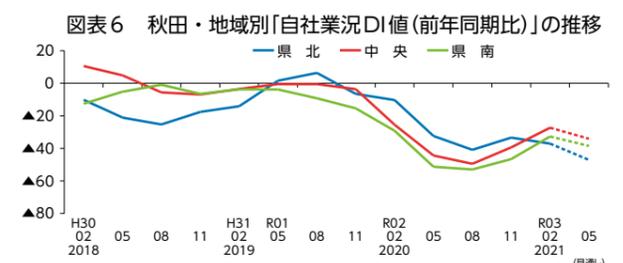
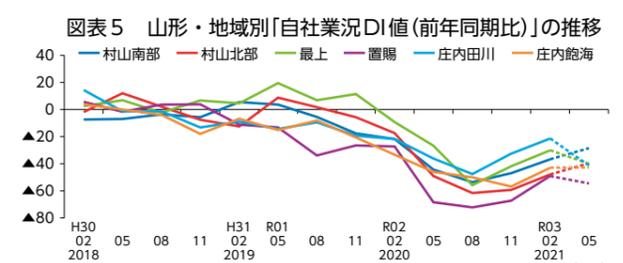
秋田県の業況(前年同期比)を業種別にみると、建設業、卸・小売業、サービス業の3業種は2期連続で改善、製造業は2期ぶりの改善と、**4業種すべてで改善**となった。



地域別の動向

山形県の業況(前年同期比)を地域別にみると、**6地域すべてで改善**となった。先行きは、庄内飽海はほぼ横ばい、村山南部と村山北部で改善が見込まれるものの、その他の3地域では悪化が見込まれている。

秋田県の業況(前年同期比)を地域別にみると、県北は2期ぶりの悪化、中央と県南は2期連続の改善と、**2地域で改善**となった。先行きは、すべての地域で悪化が見込まれている。



消費動向調査

詳細は当社ホームページ (<https://www.fir.co.jp/>)「調査レポート」をご覧ください。

〔(山形・秋田)県内家計の消費動向調査〕(概要)

- ① 調査の目的 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- ② 調査の方法 専属モニターを対象とした郵送およびインターネットによるアンケート調査
- ③ 調査の対象者 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- ④ 調査期間 令和3年3月1日(月)～15日(月)

山形	モニター世帯数：253世帯
	有効回答数：240世帯
	回答率：94.9%
秋田	モニター世帯数：238世帯
	有効回答数：221世帯
	回答率：92.9%

消費指数

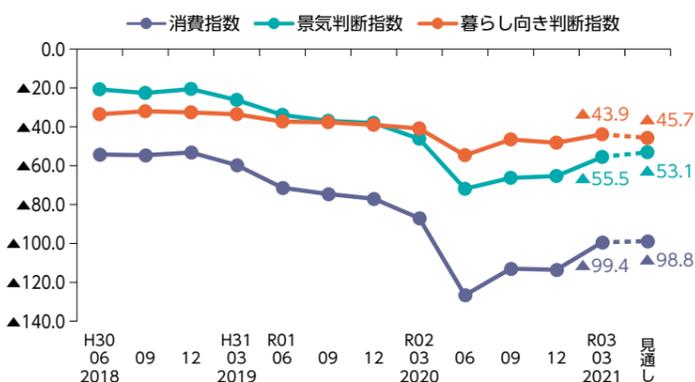
第59回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは改善ながら、先行きは引き続き慎重姿勢～

消費指数は、▲99.4(前期比14.2ポイント上昇)と2期ぶりの改善となった。内訳をみると、景気判断指数は▲55.5(前期比9.9ポイント上昇)と3期連続で改善、暮らし向き判断指数は▲43.9(前期比4.3ポイント上昇)と2期ぶりに改善した。

今後の見通しは、▲98.8(今回調査比0.6ポイント上昇)と小幅ながら改善の見込みとなっている。内訳は、景気判断指数が▲53.1(今回調査比2.4ポイント上昇)と改善の見込みながら、暮らし向き判断指数は▲45.7(今回調査比1.8ポイント下落)と悪化が見込まれている。

図表1 山形 消費指数の推移



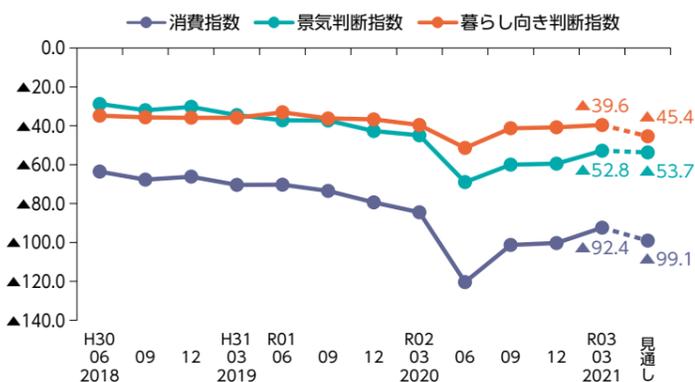
第39回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは緩やかに回復するも、先行きは慎重な見通し～

消費指数は、▲92.4(前期比7.9ポイント上昇)と3期連続で改善した。内訳をみると、景気判断指数は▲52.8(前期比6.7ポイント上昇)、暮らし向き判断指数は▲39.6(前期比1.2ポイント上昇)と、ともに3期連続での改善となった。

今後の見通しは、▲99.1(今回調査比6.7ポイント下落)と悪化の見通しとなっている。内訳は、景気判断指数が▲53.7(今回調査比0.9ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲45.4(今回調査比5.8ポイント下落)とともに悪化が見込まれている。

図表2 秋田 消費指数の推移



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き判断指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

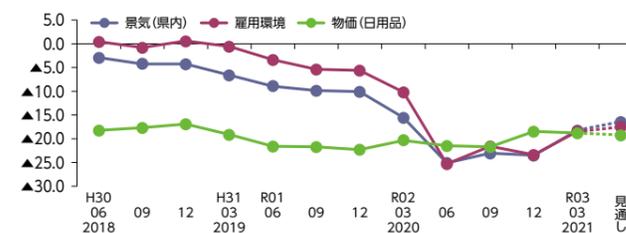
景気と暮らし向き

景気判断

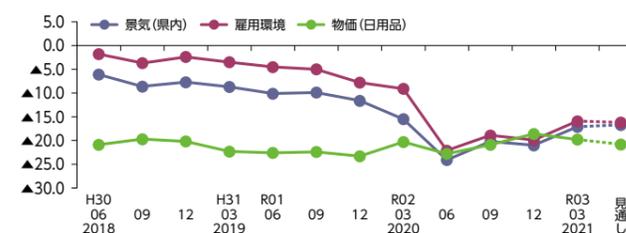
山形の景気判断指数は▲55.5(前期比9.9ポイント上昇)と3期連続で改善となった。景気判断指数を構成する3つの指数については、「景気(県内)」「雇用環境」が2期ぶりの改善、「物価(日用品)」はほぼ横ばいとなった。

秋田の景気判断指数は▲52.8(前期比6.7ポイント上昇)と3期連続で改善した。指数を構成する個別指数でみると、「物価(日用品)」が3期ぶりに悪化した一方、「景気(県内)」と「雇用環境」は2期ぶりの改善となった。

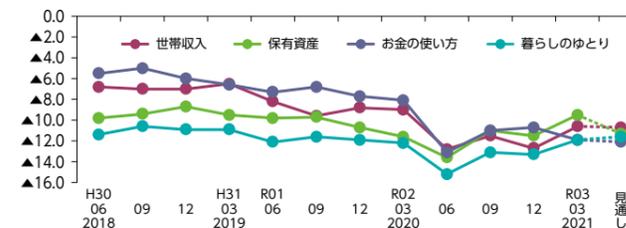
図表3 山形 景気判断指数(内訳)の推移



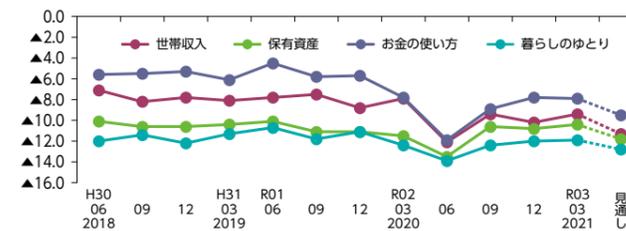
図表4 秋田 景気判断指数(内訳)の推移



図表5 山形 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



図表6 秋田 暮らし向き判断指数(内訳)の推移



暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲43.9(前期比4.3ポイント上昇)と2期ぶりの改善となった。暮らし向き判断指数を構成する4つの指数については、「世帯収入」「保有資産」「暮らしのゆとり」が2期ぶりの改善、「お金の使い方」が3期ぶりの悪化となった。

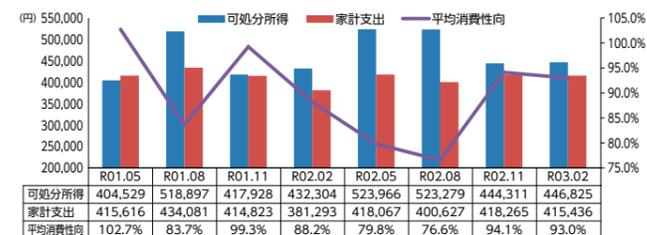
秋田の暮らし向き判断指数は▲39.6(前期比1.2ポイント上昇)と3期連続で改善した。指数を構成する個別指数でみると、「世帯収入」が2期ぶりの改善、「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」はほぼ横ばいとなった。

家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が447千円と前年同期比で15千円の増加となり、支出面では支出合計が415千円と前年同期比で34千円の増加となった。この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は93.0%と、前年同期に比べて4.8ポイントの上昇となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が446千円と前年同期比で19千円の増加となり、支出面では支出合計が416千円と前年同期比で49千円の増加となった。この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は93.2%と、前年同期に比べて7.3ポイントの上昇となった。

図表7 山形 家計収支と平均消費性向の推移



図表8 秋田 家計収支と平均消費性向の推移

